

全国協議会 ニュース

2021年4月1日発行 第344号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

さい帯血移植が2万例突破 骨髄バンクの移植は漸減

日本でのさい帯血移植が3月17日に2万例を突破しました。さい帯血移植は年々増加しています。日本のさい帯血移植例数は世界でも突出しています。提供していただいた妊婦さんに感謝申し上げます。



2万例突破でオープンされる「さい帯血バンクタイムカプセル」

非血縁者間さい帯血移植は2021年3月17日午前3時時点で20,002例となりました。さい帯血は採取の際にドナーへの負担が全くなく、凍結保存しているので迅速で安定して供給できる利点があります。また、さい帯血移植はここ数年、非血縁者間造血幹細胞移植全体の半数を超える重要な選択肢となりました。

1997年に最初の移植が行われ、1万例になったのが2013年8月で、16年かかりました。そこから2万例になるのには7年半でした。1万例突破の当

時、日本さい帯血バンクネットワークはタイムカプセルを設置し、移植数最多の虎の門病院に展示しました。カプセルのオープンが2万例突破の時となりました。

今回、2万例を目前とした3月6日、オンラインで開催された日本造血細胞移植学会のワークショップ「臍帯血バンクの現状と課題」でタイムカプセルを開封（＝写真）する動画が公開されました。小さなカプセル内には数百点の資料が詰まっていて、中には当時の移植患者が開封時に自分宛に投函して欲しいという手紙も入っていました。

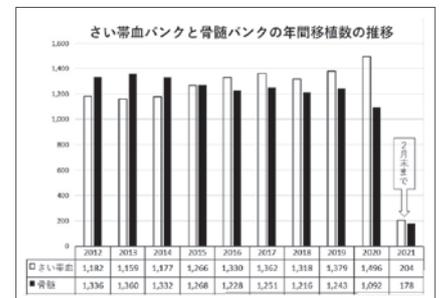
グラフは最近10年間のさい帯血バンクと骨髄バンクの移植数推移を示したものです。さい帯血は年間1,100件台から増え続け、2015年には骨髄バンクと並び、翌年は超えました。骨髄バンクは明らかに漸減しています。顕著なのは昨年で、さい帯血は1,496件、

骨髄は1,092件と大きな差がつかしました。これはコロナの影響で骨髄バンクにはコーディネートの進行に影響が出て、その分がさい帯血へとシフトしたとも読み取れます。

さい帯血バンクにも課題があります。いつでも移植できるさい帯血の公開数は10年前には3万ありましたが、最近1万を切っています。このため、さい帯血バンクでは産科病院の協力を得て採取数を増やし、休日でも調整保存する体制整備の努力などが始まっています。

ところで、2万例を機に開封したタイムカプセルは再び封入され、虎の門病院に展示されています。次にオープンするのは5万例の時だそうです。今のペースで進めば単純計算では20年先ということになるのでしょうか。

（全国協議会副会長 野村正満）



「2021 全国骨髄バンクボランティアの集い」 ハイブリット方式でZoom 配信します！

2021年5月29日（土）14：00～15：30 「2021 全国骨髄バンクボランティアの集い」
大谷貴子さんコーディネートのパネルディスカッションをリアルタイムでZoom 配信

『継承される命・心、真の緩和ケアとは ～若い親が病気になるということ～』

がんである親は、自分の病気を受け止め治療に取り組むだけでなく、子どもへの対応に悩み、特に子どもに「病気を伝えること」に悩んでいます。一方、子どもは、がんの親の様々な身体的、心理的变化や日常生活の変化などから「何かたまたま起きている」と感じています。そして病気のことを伝えられていない子どもは、自分のせいでの悪いことが起きていると思い、ストレスフルな状況に置かれています。そのため、がんと診断された時から子どもに病気を伝えることはとても大切なことです。

近藤咲子慶應義塾大学病院外来師長とチャイルドライフスペシャリスト、体験者にお集まりいただき、大谷貴子さんの進行で、AYA世代の課題であるがんの親を持つ子どものケアを考えます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

（MONTHLY JMDP(3月15日発行)より抜粋）

■日本骨髄バンクの現状(2021年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,712	2,431	530,326	852,516
患者登録者数	196	170	1,804	61,197
移植例数	81 (18)	97 (20)	—	25,217 (1,188)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■2月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム／872人、献血併行型集団登録会／1,498人、
集団登録会／0人、その他／61人

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,797人／20代 83,427人／30代 137,134人
40代 223,071人／50代 83,897人

■2月の20歳未満の登録者230人

■2月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,142件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

2021年3月22日

第11期役員選考委員会の第2回告示(概要)

全国骨髓バンク推進連絡協議会
役員選考委員会委員長 野村正満

第11期(2021年度及び2022年度)の役員選考を行うため、本年1月18日付で第1回告示により役員推薦、立候補者を募ったところ、3月1日の届出締切日までに推薦、立候補がありました。役員選考委員会規程の定める第2回役員選考委員会を3月9日に開催し、審議した結果について、以下のとおり告示します。

1. 会長、副会長、理事、監事の「推薦・立候補の状況」について
 - ・正会員(加盟団体)から提出された「推薦書および立候補届」については、不備はないことが確認された。
2. 会長、副会長、理事、監事の候補者選考結果について
 - ・会長には、1名の推薦があり候補者に選考された。
 - ・副会長には、定数3名に対し4名の推薦があり、協議の結果、3名が候補者として選考された。また、残る1名を顧問とするように理事会に推挙することとした。

- ・公募理事については、定数3名に対し立候補のあった3名全員が候補者として選考された。
- ・推薦理事については、全国区の定数3名に対し、5名の推薦があったが、うち2名は公募理事として立候補しており残る3名が候補者として選考された。地区推薦理事の定数8名に対し、推薦のあった8名全員が候補者として選考された。
- ・監事については4名の推薦があった。協議の結果、1名については副会長の候補者に選考されており、もう1名については本人の意思として監事候補者を辞退されたので顧問とするように理事会に推挙することにした。そして残る2名が監事候補者として選考された。

3. 通常総会での役員選任

2021年5月30日(日)

以上

特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
第11期 役員候補者

任期 2021年7月1日~2023年6月30日

役職	氏名	新・重任
会長	仲田 順和	重任
副会長	渋谷 俊徳	重任
副会長	野村 正満	重任
副会長	大谷 貴子	再任
理事	田中 重勝	重任
理事	村上 忠雄	重任
理事	若木 換	重任
理事	梅田 正造	重任
理事	山村 詔一郎	重任
理事	畠山 茂房	再任
理事	菅 早苗	重任
理事	山崎 裕一	新任
理事	館野 守男	新任
理事	北折健次郎	重任
理事	服部 真樹	新任
理事	浅野 祐子	重任
理事	山口 明大	重任
理事	糸数美智子	新任
監事	一樂 邦彦	重任
監事	黒部 光司	新任

国の造血幹細胞移植委員会開催



3月3日(水)、厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会が東京・港区新橋でオンライン(ハイブリット)形式で開催され、「コロナ禍における造血幹細胞移植医療の現状と対策」、「移植推進拠点病院事業の拠点病院選定と実績」、について報告議論されました。

移植医療の現状報告では、コロナ禍により骨髓バンクの新規ドナー登録者は2019年59,994人から2020年28,903人に激減したこと、骨髓バンクのコーディネートが中断・延期、他の移植方

法への変更を余儀なくされたため、昨年5月~8月に骨髓移植数が減少、さい帯血移植数が増加し、2020年の年間移植数では骨髓バンクが1,092件、さい帯血バンクは1,496件となったことが報告されました。

こうした状況を受けて、国として3つの特別研究班を設置しました。(研究期間:本年3月まで)

研究テーマ1は「オンラインを用いた新規ドナー登録およびドナーコーディネートの体制構築」(班長:北海道大学病院豊嶋崇徳教授)、研究内容としては、①Webを用いたりリモートコーディネートの体制構築、②移植コーディネートの簡素化実現に向けたスワブ検体でのHLA検査の検証、③若年ドナーの骨髓バンク新規登録増を目指した動画作成、④Web登録システムのニーズに関するアンケート調査、⑤本邦で実現可能なWeb登録シ

ステムのプロトタイプ作成、が明確にされました。今後、この研究により施策の早期導入が期待されています。

研究テーマ2は、「骨髓細胞等の代替としてさい帯血を選択するアルゴリズムの策定、選択基準の明確化」(班長:中部さい帯血バンク 加藤剛二先生)

研究テーマ3は、「コロニーアッセイ法の自動化によるさい帯血供給事業の標準化と安定供給の体制構築」(班長:日赤近畿ブロック血液センター 木村貴文先生)

造血幹細胞移植推進拠点病院事業では、拠点病院事業の概要(地域の移植病院との情報収集と共有、人材養成事業、コーディネート支援事業、地域連携事業)、および全国9ブロック12拠点病院の新規選定と実績、などの報告があり、今後特に強化する取り組みとして、「移植後長期フォローアップ体制の構築、地域の医療機関との連携強化、就労相談窓口の設置」が示されました。

**ブロックセミナー開催
＜その2＞**

全国協議会では全国各地でボランティア活動を行っているグループに呼びかけ、地域ごとに「ブロックセミナー」を開催しています。今号は東海北陸地区ブロックセミナーの様子をお知らせします。



2月27日(土)、コロナウイルス感染拡大が続く中、あいちの会のご協力をいただき Zoom でブロックセミナー

を開催しました。参加者は県行政4名、血液センター3名、血液内科医師1名、ボランティア33名(石川、福井、岐阜、三重、愛知)の総勢41名です。

初めに岐阜市民病院血液部長の笠原千嗣先生に「岐阜市民病院における白血病治療の現状」についてお話をいただき、続いて全国協議会の取り組みをお知らせするとともに、次期地区代表理事についてご了解いただきました。

続いて参加をいただいている岐阜県、三重県、富山県から取り組み状況をお知らせいただきました。愛知県からは資料をいただき皆様に配付を行いました。

また三重県及び岐阜県赤十字血液センターからご意見をいただいた後、各

地からの報告と意見交換を行いました。(全国協議会担当理事 田中重勝理事長)

参加者の感想

今回初めての参加となりましたが、説明員になりたての私にとってはとても意味のあるものでした。

笠原先生の講演は白血病の病態や治療について知識を深める事ができました。

各県行政の取り組みやボランティア団体の活動については知らなかった事も多くとても参考になりました。

改めて今まで多くの方々や骨髄バンクを支え、そしてこれからも患者さんのために活動していく事を知り、私もその一員として協力していきたいと思いました。(岐阜骨髄献血希望者を募る会 吉原)

**ゴールドジム
関西スクール発表会 贈呈式**

昨年に続き、今年も2月27日(土)高槻現代劇場(大阪府高槻市)で開かれたゴールドジム関西スクール様の発表会に伺いました。ちょうど1年前、まだどういものかもわからなかった新型コロナウイルスの感染が広がって

いる時期でしたが、多くのジム所属の人々の汗が飛び散るパフォーマンスが繰り広げられました。今年はその1/3ほどの出演者でしたが、全員がマスクをつけていて衝撃を受けました。濃厚接触となってしまうジムやダンスなどのスポーツはこの1年は続けていくのは難しかったと聞きました。練習も満足ではなかったかもしれませんが、渾

身のパフォーマンスに感動しました。

格闘家アンディ・フグさんが白血病で亡くなられて20年。ゴールドジムの皆様がコロナ禍で大変な時にも骨髄バンクに支援を続けてくださることに心より感謝申し上げます。

来年は感染の心配もマスクも不要のパフォーマンスができるよう祈っています。(全国協議会理事 浅野祐子)

**「献血&ドナー登録会」新宿で
100名を超える来場!**



東日本大震災から10年、東京新都市ライオンズクラブと西新宿角三(つものさん)町会は、「震災を忘れない! 甚大災害復興支援イベント」を新宿中央公園で毎年開催しています。しかし新型コロナウイルス感染拡大で、残念ながら昨年は中止、今年もイベントの

開催は見送られました。でも震災から10年の節目であり、コロナ禍で献血・ドナー登録が減少している状況を鑑み、待っている大勢の患者さんのために3月14日(日)に「献血&ドナー登録会」を開催する事となりました。

新宿中央公園はイベントがなければ人通りが少ない場所です。そこで献血・ドナー登録を確実に獲得するため、事前予約方式を取りました。実行委員がライオンズクラブ、角三町会のメンバー一人ひとりに声を掛け、予約時間を登録し直近で予約確認の電話を掛け、100名以上の来場が現実となりました。

この事態に東京都赤十字血液センターも献血バスを3台配車するという今までにない大規模な登録会となりました。当日は晴天でしたが風が強く、開始直前の突風で用意したテント4張りが飛ばされ使用不能となるアクシデントもありましたが、献血95名(受付118名)・ドナー登録21名と大勢の方にご協力いただきました。大きなイベントとなり、骨髄バンクを支援する東京の会以外にも、千葉骨髄バンク推進連絡会、神奈川骨髄移植を考える会の皆さまにご参加いただきました。関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。(全国協議会理事 若木換)

**日本造血細胞移植学会
ハイブリッド型で開催**

第43回日本造血細胞移植学会総会が3月5日(金)~7日(日)、Web上で開催され、その後3月末までオンデマンド配信されました。開催日の3日

間で約2,900名の参加がありました。全国協議会が応募した3本の演題が採択され、スライドがオンデマンドで配信されました。

新型コロナウイルス流行期における移植医療の現状や患者さんのケアなど、この状況下での発表が多くありま

した。例年は啓発のためにブースを設営していますが、今年はオンライン展示として、「白血病と言われたら」の内容、患者相談員の方に向けて患者支援基金を申請する際の手引きを展示しました。

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

愛知

「みんなつながっているよ」プロジェクト



2月を「つながる月間」と設定し、最終日の2月28日(日)、Zoomを用いたイベント「みんなつながっているよ」プロジェクトを開催、多くの方に参加いただき無事終えることができました。

当会では年2回、患者会を開催しています。昨年7月に開催したオンライン患者会の際、多くの患者さんが精神的につらい思いをしていることを知りました。患者さんたちは免疫力が低下しているために感染症に罹患することを恐れ、外出などがほとんど出来ない状況にありました。そんな状況を考慮し、Tシャツを作成し、患者さん、患者家族さん、医療者、支援者、マスクミ、ボランティア、関係者が、同じTシャツを着てWebでつながることで、「ひとりじゃないんだよ」「みんなつながっているよ」というメッセージを發し、絆を深めることが出来ればと思ひ企画しました。

Tシャツのイラストは国立成育医療研究センター、小児がんセンター長の松本公一先生にお願いしました。とて

も素敵なたシャツが出来上がりました。150枚作成し全国に配布、笑顔の写真を事務局に送っていただきました。届いた写真は206人、イベント内でスライドショー形式で紹介しました。イベント内では松本先生、移植コーディネーターのお話、患者さんのお話も伺うことが出来ました。シンポジウム、フリートークタイムも設けることが出来、リアルではない今までと全く違った形態のイベントが出来ました。Web上、写真での出会い、再会ではありませんでしたが、たくさんの笑顔からは「つながり」を実感することが出来ました。今回のイベントを経験し、今後さらなる患者会の発展や患者同士のつながりにも発展していくことを願っています。

(あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

北海道

北海道庁がクラウドファンディング活用の取り組み



北海道庁が、クラウドファンディングの活用によるドナー登録推進のための新たな取り組みを行いました。これは、ドナー登録が伸び悩む現状を打開するため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングを道庁自らが立ち上げ、登録や提供がしやすい環境づくりを推進するというものです。具体的には、ふるさと納税の総合サイトである「ふるさとチョイス」上に専用サイトを開設し広く寄付を呼び掛け、集まった寄付金をドナー登録推進に活用しようというものです。専用サイトでは、

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

【一般賛助会員】

橋本正成=岩手県

【サポート会員】

竹田幸子=北海道

骨髄バンクの意義やドナー登録を取り巻く課題などが説明され、骨髄バンクPRの役割も果たしました。

募集期間の昨年11月20日から今年1月20日までに集まった寄付金は125万円に達し、目標の180万円には届かなかったものの一定の成果を上げました。この寄付金は、募集に際して約束したとおり登録や提供がしやすい環境づくりの推進に役立てるため、当協会の意見も聞いていただきながら北海道内向けに特化したポスター、チラシ、パンフレットの外、ドナー休暇導入促進のための企業向けDVDなどを作成する財源に充てられ、これらはいずれもこのニュースが発行される頃には完成する見込みです。

(北海道骨髄バンク推進協会 島山茂房)

基金給付を受けた方からのメッセージ

こうのとりのマリン基金

まずは、皆さまに感謝申し上げます。私自身まだ独り身ですので、助成金は大変助かりました。治療後、仕事を始めるまでの生活は大変なものでした。精神的にも不安定でありこういった後ろだてがある事で、未来をみる事が出来たと思っております。

予後はわかりませんが、何事も諦めず前を向き進む事で夢が叶うと思える様になりました。

この機会を無駄にする事なく、体調を整え未来をみようと思ひました。

諦めない未来の為、とても重要な助成金だと私は感じています。

(関東地方在住 患者さんご本人)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日~3月20日(敬称略)

●一般	竹田 幸子 現金 10,000円	設計工房 夢家	
株式会社 THINK フィットネス	匿名 現金 30,000円	さかえ薬局	現金 3,200円
現金 392,995円	●募金箱	有限会社アニメイトグリーン	現金 16,706円
飛田 行康 現金 10,000円	株式会社クスリのアオキ	金寿司	現金 10,000円
赤代 真也 現金 5,000円	現金 746,207円	●つながる募金	
塩谷 圭 現金 1,000円	株式会社 マルト商事	現金 14,600円	
匿名 現金 3,000円	現金 56,113円	●キモチと。	
匿名 現金 28,791円	フランス亭 現金 5,247円	現金 1,183円	
●佐藤さち子基金	旭業 みどりがおか薬局		
万々 宏 現金 100,000円	現金 3,718円		

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会